

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(市町総括表)

【**単独**・連携事業】

市町名	真岡市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	真岡市夏祭り花火大会 開催事業	総事業費	18,216,857	18,809,696	22,000,000	22,000,000	22,000,000	103,026,553
		うち市町支出額	1,800,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	9,400,000
		うち県交付金	900,000	950,000	950,000	0	0	2,800,000
2	尊徳夏まつり開催事業	総事業費	8,862,832	8,840,484	10,000,000	10,000,000	10,000,000	47,703,316
		うち市町支出額	1,000,000	1,000,000	1,828,000	1,828,000	1,828,000	7,484,000
		うち県交付金	500,000	500,000	914,000	0	0	1,914,000
3	もおか“いちご”フェスタ	総事業費		6,983,343	7,000,000	7,000,000	7,000,000	27,983,343
		うち市町支出額		6,835,225	0	0	0	6,835,225
		うち県交付金		3,000,000	0	0	0	3,000,000
4	真岡井頭マラソン大会	総事業費		7,333,545	7,553,000	7,553,000	7,553,000	29,992,545
		うち市町支出額		2,160,000	2,160,000	2,160,000	0	6,480,000
		うち県交付金		1,080,000	1,080,000	840,000	0	3,000,000
5	真岡市音楽祭	総事業費			3,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000
		うち市町支出額			3,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000
		うち県交付金			1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000
6	真岡市大産業祭	総事業費			1,390,000	1,390,000	1,390,000	4,170,000
		うち市町支出額			1,260,000	1,260,000	1,260,000	3,780,000
		うち県交付金			630,000	630,000	630,000	1,890,000
7	もおか木綿踊り	総事業費			5,480,000	5,480,000	5,480,000	16,440,000
		うち市町支出額			3,700,000	3,700,000	3,700,000	11,100,000
		うち県交付金			1,500,000	1,500,000	0	3,000,000
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	27,079,689	41,967,068	56,423,000	56,423,000	56,423,000	238,315,757
		うち市町支出額	2,800,000	11,895,225	13,848,000	13,848,000	11,688,000	54,079,225
		うち県交付金	1,400,000	5,530,000	6,074,000	3,970,000	1,630,000	18,604,000

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡市夏祭り花火大会開催事業
事業主体の名称	真岡市夏祭り花火大会実行委員会
代表者の名称	藤枝 幸三
事業主体の所在	〒321-4395 真岡市荒町5191番地 真岡市役所商工観光課内
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:真岡の夏まつりにおいて、五行川への入水神輿の明り取りの付け祭りとして花火大会を実施する ・設立年月日:昭和43年 ・構成員等:真岡市花火大会の趣旨に賛同する市民等
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>真岡市では、昭和20年代後半より、市中心部の荒町、田町、台町の3町が中心となり、地域主体の夏まつりが実施されてきた。毎年7月下旬の3日間行われ、中日にはメインイベントとなる花火大会を開催するなど、地域の老若男女が一体となった取組により、真岡の夏の一大イベントとして定着し、市内外から多くの観光客が訪れている。</p> <p>しかし、少子高齢社会の進展に伴い、本市においても人口減少が進み、将来的な祭りの担い手不足が懸念されている。祭りの衰退は、地域の活力の低下さらには若者の人口流出にもつながりかねないため、いかにして市外からの訪問者を増やし、地域を気に入ってもらい、将来的に移住定住地として選んでもらうかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・市外から真岡市を訪れるきっかけをつくる。 ・来場者に真岡市に興味をもってもらい、将来の移住定住候補地として考えてもらう。 ・ふるさと意識の高揚と地域の連帯感を醸成する。
事業概要	<p>本市最大の観光イベントとして、花火大会を実施する。</p> <p>【平成30年度】 例年多くの来場者がある花火大会を今年度も開催するほか、各目的に資するため、下線部の内容を追加し実施する。 《真岡市を訪れるきっかけ》 ◎真岡夏まつり花火大会の開催(平成30年7月28日(土) ※平成30年7月27日(金)～29日(日)の夏祭り期間 打上数2万発、音響・レーザーと連動した仕掛け花火やスターマインの打ち上げ ※同時開催・・・山車屋台9台と27基の神輿が一堂に会する「お祭り広場」、山車屋台9台による「ぶつつけ」、花火と同時に神輿が五行川を渡る「川渡御」 ○集客(広告・宣伝) ・チラシ32,000枚、ポスター4,000枚作成。JR高崎駅、JR水戸駅に掲示するほか、近隣市町への配布。 ・「下野新聞」「じゃらん(関東東北版)」「夏びあ(広域首都圏)」の紙媒体によるPR。また、新たな冊子への掲載(『おでかけ栃木北関東3県』) ・花火大会やお祭り関係のHPへの掲載。 ・とちぎテレビ、レディオベリーでの告知。</p> <p>《真岡市に興味を持つ》 ・真岡市の魅力PR・・・観光パンフレットおよびシティブロモーション冊子第2弾の配布。 ・市公式Instagramに真岡の魅力を投稿し、写真を通して情報発信していく。</p> <p>《地域の連帯感》 各町会が持ち回りで当番町会となり、当番町会が中心となって花火を含めた夏祭り全体を盛り上げることによって、地域の連帯感を生み、市外から訪れた人たちに真岡市の地域の連帯感、良さを知ってもらう。</p> <p>【平成31年度以降】 平成30年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>○基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる</p> <p>・数値目標 年間観光客入込数 平成25年度284.5万人→平成31年度300万人(H29実績299万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	花火大会の開催 ・花火の打ち上げ ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	花火大会の開催 ・花火の打ち上げ ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	花火大会の開催 ・花火の打ち上げ ・プログラムの作成 ・広報宣伝等		花火大会の開催 ・花火の打ち上げ ・プログラムの作成 ・広報宣伝等
事業費	18,216,857	18,809,696	22,000,000	59,026,553	22,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,800,000	1,900,000	1,900,000	5,600,000	1,900,000
うち県交付金	900,000	950,000	950,000	2,800,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	16,416,857	16,909,696	20,100,000	53,426,553	20,100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
連絡先 FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	尊徳夏まつり開催事業
事業主体の名称	尊徳夏まつり実行委員会
代表者の名称	柴山 和之
事業主体の所在	〒321-4521 真岡市久下田848-5 にのみや商工会内
事業主体の概要	<p>・団体の目的:夏祭りを実施することで、ふるさと意識を高揚し、市の活力を醸成し、市発展に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成21年</p> <p>・構成員等:にのみや商工会、二宮地区区長会、二宮地区地域公民館連絡協議会、JAはが野、二宮地区こども会育成会連絡協議会、真岡市青少年クラブ協議会、尊徳太鼓保存会、等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>真岡市は、旧二宮町が旧真岡市に編入合併する形で誕生した市である。それぞれの市町では、合併前から様々な地域行事が行われてきたが、中でも町民が一体となって取り組む旧二宮町の花火大会は、世代を越えた町民同士の交流が図られる重要な場であるとともに、地域の行事として愛されていた。合併後も、地域融合の証し、地域住民の誇りとして存続させたいという思いから、平成21年に町民が中心となり実行委員会を立ち上げ、さらに祭りの名に郷土ゆかりのうら「尊徳翁」の名を付けて開催を継続してきたところ、近年では、市外からも多くの観光客が訪れ(平成29年度5万人)、真岡の5大夏祭りの1つとして定着している。</p> <p>その一方で、真岡市の人口減少に伴い、旧二宮町地区でも少子高齢化が進み、将来的な祭りの担い手不足のほか、街としての機能の衰退が懸念されている。旧真岡市との地域融合を図りつつ地域住民の誇りとして継続させてきた祭りの衰退は、地域の活力低下、若者の人口流出を助長しかねない。そのため、いかにして真岡市(二宮地区)への訪問者を増やし、地域を気に入ってもらい、将来的に移住定住地として選んでもらうかが課題となっている。</p> <p>※ 真岡の5大夏祭り…久下田祇園祭、真岡の夏祭り、もおか木綿踊り、灯ろう流し、尊徳夏祭り</p>
事業目的	<p>・真岡市(二宮地区)を訪れるきっかけをつくる。</p> <p>・来場者に真岡市(二宮地区)に興味をもってもらい、将来の移住定住候補地として考えてもらう。</p> <p>・ふるさと意識の高揚と地域の連帯感を醸成する。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】 近年来場者が増えている尊徳夏祭りを今年度も開催するほか、下線部の内容を追加実施する。</p> <p>《真岡市(二宮地区)を訪れるきっかけ》 ◎尊徳夏まつりの開催(平成30年8月25日(土)) 花火大会の実施。目玉は、会場から至近距離で打ち上げられる尺玉 郷土芸能大会、ふれあい広場(模擬店、おたのしみ抽選会)、オープニングセレモニー、納涼盆踊り大会の実施</p> <p>○集客(広告・宣伝) 首都圏からも人が訪れるイベントでのPR(「いちごまつり」(5月に真岡市で開催)や栃木SC真岡市民デーの会場ブース設置) ポスター、チラシを1,000部作成し、市内外の協賛者へ配布、公式WEBサイト、ツイッター 新たな冊子への掲載(『おでかけ栃木北関東3県』)</p> <p>《真岡市に興味を持つ》 ・真岡市の魅力PR…観光パンフレットおよびシティブロモーション冊子第2弾の配布。 ・市公式Instagramに真岡の魅力を投稿し、写真を通して情報発信していく。</p> <p>《地域の連帯感》 ○郷土芸能大会において、地域ならではの芸能(尊徳太鼓など)を披露することで、地域の連帯感を醸成するとともに観光客にも地域の良さをアピールしていく。</p> <p>【平成31年度以降】 平成30年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>・基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる</p> <p>・数値目標 年間観光客入込数 平成25年度284.5万人→平成31年度300万人(H29実績299万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	尊徳夏まつり 8月27日(土)開催 ①郷土芸能大会 ②ふれあい広場 ③オープニングセレモニー ④納涼盆踊り大会 ⑤大花火大会	尊徳夏まつり 8月開催 ①郷土芸能大会 ②ふれあい広場 ③オープニングセレモニー ④納涼盆踊り大会 ⑤大花火大会	尊徳夏まつり 8月開催 ①郷土芸能大会 ②ふれあい広場 ③オープニングセレモニー ④納涼盆踊り大会 ⑤大花火大会		尊徳夏まつり 8月開催 ①郷土芸能大会 ②ふれあい広場 ③オープニングセレモニー ④納涼盆踊り大会 ⑤大花火大会
事業費	8,862,832	8,840,484	10,000,000	27,703,316	10,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,000,000	1,000,000	1,828,000	3,828,000	1,828,000
うち県交付金	500,000	500,000	914,000	1,914,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	7,862,832	7,840,484	8,172,000	23,875,316	8,172,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡井頭マラソン大会
事業主体の名称	真岡井頭マラソン大会実行委員会
代表者の名称	委員長 田上 富男
事業主体の所在	〒321-4325 真岡市田町1251-1 真岡市総合体育館内スポーツ振興課
事業主体の概要	<p>団体の目的: マラソンを通して市民の健康づくりや人とのふれあいの場を提供するとともに、本市のPRの場とすることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立年月日: 昭和59年 ・構成員等: 市体育協会陸上部、市体育協会、市スポーツ推進委員会、市内小中学校代表、真岡コットンRC、真岡ファミリー楽走会、井頭公園管理事務所、市職員等
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本大会は、今年で第35回を迎え、市内をはじめ関東地区を中心に全国各地の多くのマラソン愛好者から親まれ、参加人数2,500人におよぶ本市の秋一大イベントとして定着している。大きな市民マラソン大会の影響により、マラソン愛好家が増加しており、ここ数年徐々に参加者数が増えている現状にある。</p> <p>しかし、大会開催地である井頭公園は中心市街地や観光地から離れており、マラソン参加者が観光地に足を運び、消費拡大や地域活性化とまでは結びついていないことが課題となっている。</p>
事業目的	<p>「市民ひとりスポーツ」の推進と生涯スポーツの振興を図るとともに、本市のPRや魅力を積極的に発信し、市外から本市を訪れるきっかけをつくり、来場者に興味をもってもらい、交流人口を増加させることで地域の活力の向上や地域産業の活性化につなげ、将来の移住定住候補地として考えてもらう。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>◎真岡井頭マラソン大会の開催(平成30年10月7日(日))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種目 一般10km・4km 中学生4km 小学生5・6年2km 親子ペア2km 計17部門 ・参加人数 約2,500人(市内約900人、県内1,100人、県外500人) ・コース 井頭公園及びその周辺道路 <p>《真岡市を訪れるきっかけ》</p> <p>○集客(広告・宣伝)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ4,000枚、ポスター100部作成。(益子芳星高等学校、茂木高等学校、上三川高等学校、上三川町立中学校数校、栃木県体育館、栃木県総合運動公園、スポーツショップ、下野新聞社、読売新聞社、とちぎテレビ等) ・HPに掲載 <p>《真岡市に興味を持つ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真岡市の魅力PR…観光パンフレットおよびシティプロモーション冊子第2弾の配布。 ・市公式Instagramに真岡の魅力を投稿し、写真を通して情報発信していく。 <p>中心市街地や観光地に足を運んでもらえるよう観光パンフレットを配布する。また井頭公園に隣接する井頭温泉・チャットパルス(宿泊施設)・あく里っ娘(井頭フレッシュ直売所)に気軽に立ち寄ってもらえるよう観光パンフレットを配布し、マラソン大会以外でも楽しめることをPRし、何度も遊びに来てもらえるよう魅力を発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合運動公園(陸上競技場・多目的広場・子ども広場・健康広場)のPR さらに昨年度は、弓道場とクラブハウスが供用開始され、今年4月にはテニスコートが完成しオープンしたため、広く周知しスポーツの振興を図る。 ・参加者に観光パンフレットの配布…参加賞を配布する封筒の中に観光パンフレットを入れている。 ・観光PRできるブース設置 ・特産物である真岡木綿やSLグッズ、いちごを使ったクッキーやジャムの販売をする。 ・入賞や参加賞とは別に特別賞を設け、本市で生産された米や農産物を贈呈する。 <p>【平成31年度以降】</p> <p>平成30年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>○基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる</p> <p>◆数値目標 年間観光客入込数 平成25年度284.5万人→平成31年度300万人(H29実績299万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	29年度	30年度	31年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理		マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理
事業費	7,333,545	7,553,000	7,553,000	22,439,545	7,553,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,160,000	2,160,000	2,160,000	6,480,000	2,160,000
うち県交付金	1,080,000	1,080,000	840,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	5,173,545	5,393,000	5,393,000	15,959,545	5,393,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡市音楽祭
事業主体の名称	真岡市音楽祭実行委員会
代表者の名称	会長 深野 照代
事業主体の所在	〒321-4305 真岡市荒町1201番地 真岡市文化課内
事業主体の概要	<p>団体の目的: 市民の音楽文化活動への参加意欲を喚起し、地域文化の交流・発展に寄与することを目的とする。</p> <p>・設立年月日: 平成8年</p> <p>・構成員等: 真岡市内で活動している音楽団体等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>今年で第23回を迎え、音楽を楽しみ、関心をもってもらうために実施しており、未就学児から一般音楽団体まで出場できるコンクール形式をとらない音楽祭として定着している。市内の小学校、中学校、高校が合同吹奏楽団や合唱団を編成して出演し、他校の児童生徒との貴重な交流の機会となっている。また、一般団体もジョイント形式を取り入れ、ジャンルもクラシック音楽にこだわらず、和太鼓集団が参加するなど多彩な演奏を楽しむことができる。</p> <p>しかし、こうした自主的な音楽文化活動が行われる一方で、近年、参加者の高齢化や固定化、若年層の活動離れ、文化協会会員の高齢化、文化協会団体数や会員数の減少などの問題があり、今後いかにして参加者や会員数を増やし、市民だれもが文化芸術に触れ親しみ学ぶ機会を充実させながら、誇りと愛着の持てる地域コミュニティを築き、そして維持していくことが課題となっている。</p>
事業目的	<p>・市民の音楽文化活動への参加意欲を喚起する。</p> <p>・地域文化の交流・発展に寄与する。</p> <p>・ふるさと意識の高揚と地域の連帯感を醸成する。</p> <p>・真岡市に興味をもってもらい、移住定住を促進する。</p>
事業概要	<p>【平成30年度】</p> <p>◎音楽祭の開催(平成30年11月11日(日))</p> <p>園児の太鼓演奏から始まり、小中高生の吹奏楽部の演奏や合唱、特別出演団体や一般団体の演奏など全8部で構成されている。</p> <p>・参加人数 約1,500人</p> <p>・参加団体 市内の幼稚園・保育園、小中学校、高等学校、一般音楽団体(本市に活動拠点を置く)、特別出演団体</p> <p>○開催前の主な取り組み</p> <p>・平成30年4月 参加団体公募締切</p> <p>・平成30年5月 無料練習の一斉受付</p> <p>・平成30年8月 プログラム編成、合同演奏団練習</p> <p>・平成30年9月 ポスター・チラシによる開催案内を開始(ポスター50枚、チラシ5,000枚、配布場所: 県内公文書施設他)</p> <p>・平成30年11月 楽器の輸送、児童生徒の送迎</p> <p>《音楽文化活動への参加意欲向上の取組》</p> <p>・未就学児から一般音楽団体まで出場できるコンクール形式をとらない音楽祭で幅広い層の参加を募っており、近年は参加者や観客者が増加傾向である。自ら企画し演奏し、そして演奏する楽しみを体得する。</p> <p>《地域文化の交流・発展の取組》</p> <p>市内の小学校、中学校、高校が合同吹奏楽団や合唱団を編成して出演し、他校の児童生徒との貴重な交流の機会となっており、一般の団体も出演するため、演奏の仲間づくりができるとともに、地域との繋がりが密接なものとなる。</p> <p>《真岡市に興味を持つ》</p> <p>・真岡市の魅力PR…観光パンフレットおよびシティプロモーション冊子の配布。</p> <p>・公式Instagramに真岡の魅力を多くの方に写真を通して情報発信していく。</p> <p>【平成31年度以降】</p> <p>平成30年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p> <p>○基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる 【数値目標】 年間観光客入込数 平成25年度284.5万人→平成31年度300万人(H29実績299万人)</p> <p>○基本目標4 安心して暮らしやすい地域をつくる 【数値目標】 安心して暮らすことができると感じている市民の割合 平成25年度45.7%→平成31年度70%(H28実績45.7%)</p> <p>【KPI】 自治会加入率 平成25年度78.2%→平成31年度82%(H28実績76.6%)</p>
事業に係る市町総戦略の目標及びKPI	

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等		音楽祭の開催 ・参加団体受付 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等
事業費	3,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000	3,000,000
市町支出金 (ソフト事業分)	3,000,000	3,000,000	3,000,000	9,000,000	3,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	0
その他自主財源等	0	0	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
連絡先 FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡市大産業祭
事業主体の名称	真岡市大産業祭実行委員会
代表者の名称	石坂 真一
事業主体の所在	〒321-4395 真岡市荒町5191番地 真岡市商工観光課内
事業主体の概要	団体の目的:真岡市の商業・工業・農業を広く紹介し、市民生活の向上と経済活動の発展に寄与することを目的とする。 設立年月日:昭和58年 構成員等:真岡市、真岡商工会議所、真岡市商店会連合会、真岡工業団地総合管理協会、真岡産業振興会、はが野農業協同組合、真岡市消費者まつり実行委員会、真岡市子ども会育成会連絡協議会
当該事業に係る地域の現状と課題	大産業祭は、今回で第29回を迎え、商業・工業・農業が集結する秋の一大イベントとして定着している。本市では、商業・工業・農業など、バランスのとれた各種産業の発展を図るとともに、首都圏に位置する地理的優位性や物流の基幹となる北関東自動車道に十分に活かした基盤整備を図り、企業誘致を推進し雇用環境を創出するなど、地域経済の活性化に取り組んでいる。しかし、商業地には大型店や量販店が点在し、既存の中小業者は極めて厳しい経営環境にあるため、創意工夫した共同事業を実施することで、中心市街地の賑わいや魅力ある商店街づくりを促進する必要がある。 また、「生産量日本一のいちごのまち」として知名度アップやブランド力向上に努めるほか、トマトやなすなどの施設園芸作物を支援し「園芸立国もおか」の推進を図っている。しかし、農業従事者の高齢化や担い手不足、産地間競争の激化などに対応するため、いかにブランド力を高め収益性の高い農業生産に努めるかが課題となっている。
事業目的	・真岡市の商業・工業・農業を広く紹介し、魅力を市内外に積極的かつ効果的にPRする。 ・市民生活の向上と経済活動の発展に寄与する。 ・各種地域資源をつなぐ「真岡ブランドづくり」を推進する。 ・次代を担う後継者を確保し、移住定住を促進する。
事業概要	【平成30年度】 市民広場をメイン会場に、産業祭、JAまつり、消費者まつり、子供まつり、環境展などが同時開催され、真岡市の商業・工業・農業が集結する大産業祭を開催する。 ◎大産業祭の開催(平成30年11月23日(勤労感謝の日)) ①産業祭(事業主体:真岡商工会議所) ・ステージイベントやパフォーマンスの開催、ふれあい動物広場 ・ご当地グルメ「真岡いちご飯バーガー」などの販売 ・北関東交流フェア(佐野市、大洗町、桐生市の特産品の販売)、埼玉県桶川市(防災協定都市)による特産品販売 ・自衛隊PRコーナー(自衛隊車両や装備品の展示、グッズ販売) ②JAまつり(事業主体:はが野農業協同組合) ・特産品の無料配布や販売による真岡ブランドづくり、消費拡大を図る。 ・各種PRブース設置(地域芸能の発表、農協観光PR、農作業安全PR、作品や活動写真の展示) ・JA、県、市合同の新規就農者相談会 ③消費者まつり(事業主体:消費者まつり実行委員会) ・消費者団体が一堂に会し日頃の学習成果を発表するとともに、市民に消費生活についてPRする。 ・食品表示を学ぶコーナー、物品の販売など ④環境展(事業主体:市環境課) ・リサイクル品の展示及び抽選会、古本販売、フリーマーケット、使用済小型家電の回収など、快適な生活環境の保全を目指すとともに、3R運動の推進を図る。 ⑤子供まつり(事業主体:真岡市子ども会育成会連絡協議会) ・模擬店、昔遊び、クイズ大会を実施し、子どもの健全育成を図る。 ◎誘客 同時開催するJAまつり、産業祭との統一チラシを作成し、市内全域にオールポストすることで、集客力を向上させ各産業経済への活性化を図っている。 市広報、会議所だより、農協だより、観光協会ホームページ、下野新聞、真岡新聞等に掲載。ケーブルテレビ等での周知。 【平成31年度以降】 平成30年度実施内容及集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	◎基本目標1 しごとをつくり、安心して働けるようにする 【数値目標】真岡第1〜5工業団地、大和田産業団地への立地企業数 平成25年度87社→平成31年度95社(H29実績93社) 【KPI】製造品出荷額 平成25年度5,434.3億円→平成31年度6,600億円(H26実績5,511.0億円) 卸売・小売業の販売額 平成25年度1,014.1億円→平成31年度1,029.3億円(H26実績1,029.7億円) いちご生産量 平成25年度6,941t→平成31年度7,000t(H29実績7,111t)

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	大産業祭の開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等 ・警備及び交通整理	大産業祭の開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等 ・警備及び交通整理	大産業祭の開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等 ・警備及び交通整理		大産業祭の開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等 ・警備及び交通整理
事業費	1,390,000	1,390,000	1,390,000	4,170,000	1,390,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,260,000	1,260,000	1,260,000	3,780,000	1,260,000
うち県交付金	630,000	630,000	630,000	1,890,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	130,000	130,000	130,000	390,000	130,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単事業調査)
【単事業】

市町名	真岡市
事業名	もおか木綿踊り
事業主体の名称	もおか木綿踊り実行委員会
代表者の名称	委員長 岡本 俊夫
事業主体の所在	〒321-4305 真岡市荒町1203番地 真岡商工会議所内
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的: 中心市街地及び商店街の活性化を図り、活気と賑わいを創出するとともに、多くの市民が参加し、感動を共有することで連帯感とふるさと意識を高めることを目的とする。 ・設立年月日: 平成元年 ・構成員等: 市、商工会議所、商店会、関係区長等
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>昭和28年に輪踊りによる真岡町盆踊り大会が始まり、ふるさと意識の高揚と地域の連帯感を深める地域の行事として愛されてきた。踊り手、観客の減少により、平成元年に盆踊り検討委員会を立ち上げ、翌年商店街を会場とした流し踊りによるもおか木綿ふるさと踊りを開催、その後時代のニーズに応じて思考を凝らしながら、平成19年に「もおか木綿踊り」と名称を変更し、また真岡の5大夏祭りの1つとして定着している歴史ある事業である。</p> <p>しかし、少子高齢社会の進展に伴い、本市においても人口減少が進み、将来的に祭りの担い手不足が懸念されている。祭りの衰退は、地域の活力の低下さらには若者の人口流出にもつながりかねないため、シビックプライドの醸成することで本市に住み続けたいと思われるまちづくりを実現し、そしていかにして市外からの訪問者を増やし、地域を気に入ってもらい、将来的に移住定住地として選んでもらうかが課題となっている。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地及び商店街の活性化を図る。 ・市外から真岡市を訪れるきっかけをつくる。 ・来場者に真岡市に興味をもってもらい、将来の移住定住候補地として考えてもらう。 ・ふるさと意識の高揚と地域の連帯感を醸成する。
事業概要	<p>【平成30年度】 中心市街地である荒町本通りを会場に、「見る人も、踊り人も、みな楽しめる」をコンセプトに実施する。</p> <p>○もおか木綿踊りの開催(平成30年8月18日(日))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加団体 約30団体 ・参加人数 約1,600人 <p>①流し踊り 荒町本通りにて、瑞穂踊りを基本に踊る。</p> <p>②創作踊り よさこい、ヒップホップダンス、フラダンス等を披露する。</p> <p>③こどもお祭り広場 模擬店や昔遊びなどの広場を作り、子育て世代や若い世代を呼び込み、賑わいや活気を創出し誘客を図るとともに、本市のイメージキャラクターによるPRを行う。</p> <p>○誘客 ・チラシを作成し、新聞折り込みすることで、集客力を向上させ、中心市街地及び商店街の活性化を図っている。 市広報、会議所だより、市、商工会議所、観光協会ホームページ、下野新聞、真岡新聞等に掲載。ケーブルテレビ等での周知。 ・荒町本通りでは、真岡木綿会館に加え、本市の観光拠点である久保記念観光文化交流館において、観光情報などの様々な魅力を発信する。</p> <p>《真岡市に興味を持つ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真岡市の魅力PR・・・観光パンフレットおよびシティブロモーション冊子の配布。 ・公式Instagramに真岡の魅力を多くの方に写真を通して情報発信していく。 <p>【平成31年度以降】 平成30年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>○基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる</p> <p>・数値目標 年間観光客入込数 平成25年度284.5万人→平成31年度300万人(H29実績299万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	30年度	31年度	32年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	もおか木綿踊りの開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等	もおか木綿踊りの開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等	もおか木綿踊りの開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等		もおか木綿踊りの開催 ・参加団体受付 ・広報宣伝等
事業費	5,480,000	5,480,000	5,480,000	16,440,000	5,480,000
市町支出金 (ソフト事業分)	3,700,000	3,700,000	3,700,000	11,100,000	3,500,000
うち県交付金	1,500,000	1,500,000	0	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	1,780,000	1,780,000	1,780,000	5,340,000	1,980,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	企画課
担当者名	大橋 真代
電話	0285-83-8102
FAX	0285-83-5896
E-mail	kikaku@city.moka.lg.jp